

# OPINION

矢橋 昇 交通評論家

私はこう考える

1935年生まれ。東海ラジオ放送で長年にわたり交通事故防止と交通安全教育関係の番組制作に携わった後、独立し、交通事故防止および交通安全教育関係とコミュニケーションを中心とした社会性育成に関する研究と講習・講演・執筆に取り組む。現在、愛知・岐阜・三重各県および東京都の安全運転管理者講習や愛知県指定自動車教習所指導員法定講習などの講師、(社)日本自動車連盟中部本部の交通問題担当嘱託を務めるほか、大学、専門学校などで教鞭を執る。交通関係の著書には、「親の心、子知らず」「運転術向上委員会」「交通安全の視点と伝え方」「読み聞かせる交通安全絵本シリーズ1~6」など。

## 事故防止の前に迷惑防止のために、 交通ルール・マナーを守る



月刊「運転管理」に矢橋さんが連載している「交通安全シヨートシヨート」をまとめた『あなたに贈る「安全運転」(モビリティ文化出版)が昨年10月に出版された。1999年4月号から2005年7月号までの75話が収められている。日常のよくある交通場面を題材にして交通安全、交通マナーをわかりやすく説くというスタイルで、最後にポイントを短く標語風に掲げ、1話が完結する。例えば、「破談」という話。お見合いに行く途中で、横断歩道を渡ろうとした女性がクラクションを鳴らさず横切った高級乗用車に泥水をかけられてしまう。お見合いはうまくいったのだが、相手の男性がその高級乗用車を運転して帰るのを見て、気持ちが変わり断りの返事をしたというストーリー。最後に「運転マナーは、その人の本性の表れ。運転マナーで、あなたの評価が決まることもあるのです」と、ポイントを挙げて終わる。

「75話のうち、実話は3つくらい。その他は、街で見かけたこと、いろいろなところで聞いた話、相談された話をヒントに、誰にも思い当たること、説教がましなく、交通安全を身近なところから考えてもらえたいことを念頭において書いています。」

### 「なぜ」を考える 教育への転換

話をヒントに、誰にも思い当たること、説教がましなく、交通安全を身近なところから考えてもらえたいことを念頭において書いています。話のなかで、事故に至るケースは少ない。事故になってもほとんどは軽微な事故である。事故を前面に出さないのは、矢橋さんが事故を防ぐために交通安全を行うというだけでは、交通安全は浸透しないと考えているからだ。「個人のレベルでは事故がレアケースで、多くの運転者は事故のビデオを見て他人事で、自分には事故は起きないと思っっています。『危ない、いけない』といわれるような運転をしても、今まで事故を起こしたことがないから、自分は大丈夫と思っっている。ですから、事故防止のための安全運転といっても、事故を自分のことと考えないからなかなか実践しない。」

矢橋さんは事故防止以前に、まず迷惑防止のためにルールやマナーを守ることを提唱する。「迷惑は誰もがさまたげ人間関係のなかで多少はかけていることで、私自身も思い当たることがある。道路という公共の場を、他の人に迷惑をかけないよう、みんなと分かち合っって使うという考えであれば、これは自分のこととして考えるのではない。迷惑をかけることの結果として事故が減り、事故防止につながっていきます。危険予測も迷惑予測から始めていくというと思います。イギリスの交通安全のテキストには、他人の安全に気を配る、他人の権利を守るということを踏まえて構成されたものもあります。まさに個人主義の発想で、人権の尊重が基本にあるわけですね。日本ではこうした個人主義ではなく、まず自分のことしか考へなくなっってしまう。」

## HOW TO LEAD

★効果的な安全手法を学ぶ

[交通教育センターレインボー浜名湖/Hondaモーターサイクリスト・スクール]

正しい形には意味がある  
REPO  
午前10時、HMS初中級1日コースが始まった。この日の指導を担当するのは、中村泰宏インストラクター。昨年の指導力審査ではメインインストラクター役を務めた。実技に入る前に、中村インストラクターが参加者を集め、「みなさん、手のひらに指で『心』という漢字を書いてみてください」と言う。「いかがですか? 3つ目の点は、はらいの外側に打つのが正しい形です。この漢字は人間の心臓の形をかたどったもので、3つの点は血管を意味しているそうです」と続けた。

毎年9月、鈴鹿サーキット交通教育センターで開催されているセーフティジャパンインストラクター競技大会。この大会の競技の1つに、ホンダの交通安全センターのインストラクターのみを対象にした指導力審査がある。これは、各交通教育センターを代表するインストラクター(3名1組)が規定のテーマについて、わかりやすい指導方法を競うものである。昨年の指導力審査のテーマは、ホンダモーターサイクリスト・スクール(以下、HMS)での「二輪車の運転姿勢の指導方法」そして、この指導力審査で第1位となったのは、交通教育センターレインボー浜名湖のインストラクター3名であった。



ブレーキング時の上半身の使い方をアドバイス

## 運転技術の向上は、正しい運転姿勢を身につけることから始まる

大切なことは何回でも話すべき  
HINT  
中村インストラクターは、上級者が集まるコースでも、運転姿勢の基本を教えることがあるという。「正しく、きれいな姿勢で運転してれば、何か起きた場合の対応がしやすいです。私たちインストラクターは運転姿勢を常に意識しています。」

参加者は下半身でしっかりとバイクを挟むことにより、上半身の力が抜け安定した走行ができるというアドバイスをふまえて、ブレーキングの練習に入りました。最初は約30m加速した後、ブレーキをしっかりとつけて停止することを繰り返す。「次は、下半身の支えがもう少し楽になるような練習をしましょう。加速する時は上半身を少し前かがみに、減速する時は後ろに引くことにより、体にかかる力に対向してみましよう」と中村インストラクター。

「正しく、きれいな姿勢で運転してれば、何か起きた場合の対応がしやすいです。私たちインストラクターは運転姿勢を常に意識しています。」

**ベーシック・データ**

- Hondaモーターサイクリスト・スクール(HMS)の開催目的
- HMSは二輪車の特性を理解し、自らの運転能力を把握することにより、安全運転に対する意識および運転技術の向上を目的としている。
- \*全国8カ所のHondaの交通教育センター(もてぎ・和光・埼玉・浜名湖・浜松・鈴鹿・福岡・熊本)で開催。指導は、経験豊かで高度な指導技術を持つインストラクターが担当し、実技を主体とした参加体験型のカリキュラムを特色としている。
- 取材日
- 2005年12月3日(土) 10:00~16:00
- 取材日の受講生数
- 26名



「ちょっとしたフォームの改善で、スムーズに運転できるようになった」と、中村インストラクターの指導は参加者に好評だ

HMSは参加した一人ひとりが安全運転の原点に戻れるスクールであることを、中村インストラクターの指導方法は表現している。



休憩時間にも、参加者から質問が寄せられた

※セーフティジャパンインストラクター競技大会はHondaの安全運転普及の要である安全運転インストラクターの指導力ならびに運転技術の向上と均質化を図り、活動の質を高めることを目的に1997年より毎年開催されている。第9回を迎えた昨年は海外29名の選手を含む122名が参加